

2015 年秋季応用物理学会秋季講演会シンポジウムの案内
有機エレクトロニクスの萌芽的研究
Seeds Research in Organic Electronics

有機エレクトロニクス分野は、応用物理学会の学問領域の中でも萌芽的な研究から始まり、近年では有機 EL やトランジスタ、太陽電池などの研究が中分類を形成するまでに発展している。その歴史的過程の中、多くの研究者による研究発表と交流が、今日の当該分野の発展に大きく寄与したことは論を俟たない。中分類再編の中で生まれ変わった新しい中分類である 12.3 機能材料・萌芽的デバイスでは、活発な提案や議論の中、再びこれらに続く新しい有機デバイスの芽として萌芽的な機能材料やデバイスに関する研究が徐々に育っている。

本シンポジウムでは、関連分野で精力的に研究を進めている研究者の招待講演を中心に構成し、将来的な発展が期待される次世代の有機エレクトロニクス創出に向けた研究に関する議論の場となることを期待している。また、今回は『センサー』、『フレキシブルエレクトロニクス』、『イオントロニクス』、『熱電変換』といったキーワードに関連する講演が中心となり、特にデバイス面での最近の研究動向や将来展望を議論できる場を提供する。これらの分野は、社会的な要求が高まっているヒューマンインターフェースやエネルギーハーベスティングに直接貢献できる内容であり、次世代技術としての期待も大きい。また、本シンポジウムを契機として、新しい研究者が増え、異分野のコラボレーションなどが進み、今後の新しい研究の展開に繋がればと期待している。

本シンポジウムは応用物理学会期間中の 9 月 13 日の午後に実施し、招待講演者は下記の 6 名である。いずれも、材料やデバイスの両面から当該分野をリードしている研究者である。本シンポジウムは一般講演も募集しており、皆様からの積極的な投稿を期待している。

招待講演者（所属）及び講演タイトル

石田 謙司（神戸大学）：有極性分子膜を用いた有機センサ開発

奥崎 秀典（山梨大学）：導電性高分子を用いた伸縮性電極の作製とデバイス応用

竹井 邦晴（大阪府立大学）：ナノ材料の印刷技術を用いた大面積フレキシブル・ウェアラブルデバイスシート

竹延 大志（早稲田大学）：電解質を用いた新しい機能性素子

中村 雅一（奈良先端科学技術大）：分子の機能を活かした「やわらかい」熱電材料の探索

野々口 斐之（奈良先端科学技術大）：界面化学的アプローチによる安定な n 型カーボンナノチューブの創製

世話人：福田 武司（埼玉大学）、尾崎 良太郎（愛媛大学）
永野 修作（名古屋大学）、山雄 健史（京都工芸繊維大学）